

R6年度 鼓ヶ浦中学校 学校経営の改革方針

◇鈴鹿市のめざす子どもの姿

人とつながり自ら豊かな未来を切り拓く鈴鹿の子ども

◇鈴鹿市の基本理念

誰もが輝きウェルビーイングが高まる鈴鹿の教育

◇学校教育目標(理念)

「信頼と挑戦」

すべては生徒のために。生徒主体の教育活動を推進する。
「根」を育てる教育(生涯を支える心技体)を推進する。
家庭・地域・学校の連携による凡事徹底の指導支援を推進する。

【学校教育活動のサイクル】

自立と自律
利他共生の心

心身を整える
自己理解
非認知能力の向上

学びあひ
信頼
挑戦

学ぶ・深める
協働する

【めざす生徒像】

- ①互いに信頼しあい
協働的に学校生活を創造できる生徒
- ②自ら学び、失敗を恐れず挑戦し続ける生徒

【めざす学校像】

- 「来てよかった、明日も来たい」と思う学校
- ①信頼関係で結ばれた学校
 - ②挑戦し続ける、活気あふれる学校

【めざす教師像】

- ①互いに信頼しあい
協働的に教育活動のできる教師
- ②専門性を高め、未来を見据え挑戦し続ける教師

重点目標	現状と課題	行動目標	具体的な行動計画	評価指標(数値目標) 青字R6目標値
特色ある教育活動の創造	「学び合う」授業の創造 ○研修会を重ね「聴く」「つなぐ」授業改善ができた。 ○謙虚に課題の質の検討、生徒支援の声かけができた ●個人へ戻す「振り返り」の時間が充実していない。 ●発表したり、表現したりする力が弱い。 ●個々の学力の把握や支援ができていない。 ●ICT機器の効果的活用は、研究していく必要がある。	自ら学び深く考える過程を大切に ・教師主導から、生徒主体の能動的な授業サイクル(学びあひ)へと授業改善する。 ・落ち着いた環境の中で、様々な見方考え、知識・技能を確実に習得させる。 ・課題のある生徒に配慮し、ユニバーサルデザインに基づく授業展開の工夫をする。	①授業改善 ・「めあて」の提示。「振り返り」の充実 ・「聴く(訊く)」「つなぐ」「もどす」「ケア」 ・達成感と満足感が得られる工夫 ・生徒個々の見取りの徹底 ②校内研修 ・教員が能動的に学ぶ研修の充実 ・ユニバーサルデザイン	「授業中、自分から進んで発言したり考えを発表できる」 生徒アンケート R4:54.5% R5:39.9% ⇒50% 「自分から進んで勉強に取り組んでいる」 生徒アンケート R4:71.1% R5:75.7% ⇒80% 「自分の考えと比較しながら友達の考えを聞いている」 生徒アンケート R5:72.5% ⇒80%
	個に応じた支援体制の充実 ○教員・生徒・保護者間の信頼関係の構築ができた。 ○課題のある生徒の支援体制が進んだ。 ○誰一人取り残さない学びあひの成果が表れている ○全職員で学校全体の支援体制ができていた。 ●個々の特性による行動課題を解消する手立てが不十分。 ●不登校生徒は学校のケアだけでは対応できない。 ●個別の発達課題が全体に影響する場面が多々ある。	生徒理解に基づく信頼関係の構築 ・全教職員による生徒理解の徹底と信頼関係づくり。 ・特別支援Coを核とした支援体制の推進と充実。 ・生徒指導主事を核とした、日常的な啓発活動と問題行動の早期対応、解決。 ・日常的な保護者との信頼関係づくり。	①生徒理解 ・雑談、傾聴、家庭連携。 ・教育相談の充実(QUの活用) ・「ほめる」「励ます」関係づくり ・生活ノートの充実 ②保護者連携 ・面談推進、SC医療連携、ケース会議 ③生徒会・委員会の活性化 ・生活課題に対する啓発活動の推進	「困ったとき、学校の先生に相談できる」 生徒アンケート R4:75.8% R5:80.7% ⇒85% 「先生はわたしのよいところを認めてくれる」…校区連携 生徒アンケート R4:91.3% R5:93.7% ⇒95% 「学校に行くのは楽しい」⇒安心度が進む 生徒アンケート R4:86.1% R5:82.3% ⇒85% 不登校生徒数の減少 R4 27人 R5 31人(12月)⇒減少
	豊かな教育の創造 ○職場体験学習、高校体験授業や進路学習等を通じ将来を考える場面を計画的に作った。 ○スポーツ出前授業や文化芸術鑑賞等本物との出会いの場を設け、教養・情操を養った。 ○人権フォーラムや「ようこそ先輩」など、異年齢の児童生徒と語る場面を設定した。 ●生徒会・委員会活動が係活動に終わっていた。	自立・自律 豊かな心の醸成 ・人権教育、キャリア教育の視点を土台とする教育活動を3年間積み上げる。 (自己理解、生き方・在り方、マナー・礼儀、あいさつ、奉仕活動目標設定・夢の醸成) ・地域の人、社会で活躍している人、異年齢の人、文化的活動等との出会いを通して、自分の役立て方を考えさせる。	①キャリア教育 ・職業調べ、職場体験学習、企業訪問、出会い学習、学年間の交流学習の充実 ・地域行事、奉仕活動への参加促進 ②人権教育 ・道徳、総合での人権学習の充実 ・人権フォーラム、人権的行事の充実 ③教養、情操教育、読書活動の推進 ・スポーツ教室、文化講演会等の全校開催	「将来の夢や目標を持っている」 生徒アンケート R4:67.4% R5:69% ⇒75% 「将来の進路や職業について適切に指導している」 保護者アンケート R4:71% R5:80.5% ⇒85% 「クラスでは人に対する思いやりが大切にされている」 生徒アンケート R5:78.1% ⇒85% 3年間積み上げたキャリア教育の実現 ⇒推進
開かれた学校づくり	教育課題の共有 ○定期的な学校・学年・進路通信の発行により、保護地域に教育課題を発信することができた。 ○授業参観WEEKを適宜設けることで学校の実態を保護者や地域に見取ってもらうことができた。 ○部活動メール配信は適切に行うことができた。 ●HPの更新はあまり進まなかった。 ●保護者・地域・学校三者で教育を進める必要がある。	教育課題の共有と役割分担 ・教育活動のねらいを示し、生徒の活動の様子を実際に見せることで、家庭・地域の学校の課題を実感してもらう。 ・情報通信手段を用いて、計画的・効率的に、広く情報を発信・提供していく。 ・教育にかかわる三者の役割を明らかにし、家庭・地域・学校が協働して教育ができる関係を構築する。	①学校開放 ・授業参観WEEK、保護者会の開催 ・学校運営協議会、PTA会議、保護者会議での熟議 ②情報発信 ・学校・学年・各担当からの定期的な通信 ・学校HPからのタイムリーな配信 ・メール配信システムによる緊急時の配信 ・学校活動成果物の地域、校区回覧 ・普段からの保護者連絡の充実	「学校は教育方針を保護者にわかりやすく伝えている」 保護者アンケート R4:80.9% R5:72.7% ⇒80% 「情報を家庭に積極的に提供している」 保護者アンケート R4:80.9% R5:88.3% ⇒90% 「学校は参観・保護者会等で保護者の意見を聞こうと…」 保護者アンケート R5:84.7% ⇒90% 学校だよりは地域回覧をする ⇒継続
	PDCAサイクルの運用 ○学校アンケートを分析し、生徒の実態とともに改善策を考え、実行した。 ○全国学調・みえスタは速やかに採点をし、全体で協議し、改善策を考え、校区でも交流できた。 ●チェック、アクションまでいかない課題もある。	データに基づくPDCAの構築 ・各種アンケートの結果を全教職員で分析し、課題を把握し改善計画をたて行動する。 ・定期的評価を行い、対策、改善をし、次につなげる体制を構築する。 ・学校業務全般でPDCAを意識する。	①全教職員による課題の共有 ・全国学調・みえスタの自校採点と分析 ・専門アンケートの課題共有 ②課題を見据えた運営と評価、改善 ・企画会議での提案事項検討の徹底 ・分掌からの啓発活動の促進 ・全教職員による学校評価	「学校は意欲的に取り組めるよう教え方を工夫している」 保護者アンケート R4:72.7% R5:80.1% ⇒85% 「学校はいじめや暴力が起きた時に適切に対応している」 保護者アンケート R5:83.0% ⇒90% 家庭や地域の学校への理解や協力 ⇒推進
	保護者地域との連携協働 ○除草作業などPTAのみならず、地域にも呼びかけ生徒、職員、保護者、地域の方で行えた。 ○年2回の海岸清掃は、部活動単位で参加した。 ○有志生徒が老人会行事・ラジオ体操・夏祭りにも参加した。 ○津波避難訓練は1年生から地域へも発信できた。	利他共生の精神の醸成 ・人の役に立つ活動を推進し、仕事を通して生徒の自己肯定感を高める。 ・社会の様々な場面で人と関わりから、見聞を広め、学び、生徒が理想の姿を描けるようにする。 ・地域と連携した地震防災学習を推進する。	①奉仕活動の推進 ・委員会からの啓発活動推進 ・自己を見つめる清掃活動の推進(無言清掃) ②地域ボランティア行事への参加 ・海岸清掃、老人会、ラジオ体操、祭り補助 ③地震防災学習の推進 ・1学年で連携した地震防災学習実施 ・防災リーダー&カリマネの工夫	「人の役に立つ人間になりたいと思う」 生徒アンケート R4:93.7% R5:96.5% ⇒継続 「学校は防災、防犯、事故防止によく配慮している」 保護者アンケート R5:91.1% ⇒100% 「基本的な生活習慣が定着するよう働きかけている」 保護者アンケート R5:84.4% ⇒90%
組織力の強化と人材育成	授業力向上 学力の育成 ○一人年1回の研究授業に取り組んだ。 ○ブチ研修会などで必要に応じた講師招聘をした。 ○校内研修会では、専門講師の助言を受け、自分化することができた。 ○一部習熟度別授業により、生徒の意欲が向上した。 ●教科部会の設定がなく、十分な検討できなかった。 ●教科の特性や単元による授業スタイルの柔軟化。 ●個々に応じた学力の定着のさせ方の工夫。	自ら学ぶ校内研修と内容の充実 ・教員自身の課題を明らかにした実効性のある授業改善を推進する。 ・知りたい、学びたい内容や学校の課題に即した講師による研修会を計画する。 ・授業力UP5と本校独自の学びあひ授業を通して、個別最適な学びと協働的な学びを表現していく研修を行う。 ・各教科が求める資質能力を見極める。	①校内研修目標に沿った日々の授業改善 ・一人1回以上の研究授業 ・校内授業巡回による自己研鑽 ②自己研修の充実 ・校外研修(研究授業)に1回以上参加 ・教育課題に沿った読書の推進 ③ICT活用の推進 ・ICT支援員との連携学期1回以上 ④教科部会の定期的開催 ・定期的な教科部会の設定 ・個々の生徒学力の把握と定着の工夫	授業公開年間一人1回以上 「先生はわかりやすく授業を工夫してくれる」 生徒アンケート R4:90.4% R5:89.8% ⇒90% 「家庭学習時間1時間以上」 生徒アンケート R4:58.4% R5⇒65% 全国学調・みえスタ ⇒県平均以上CD層の割合 国語 1年:国-0.4 数-1.8 3年:国-2 数-2 2年:国-4.4 数-6.5 ⇒国+3.2 数-1.4
	組織力向上 チーム鼓中 ○教員間の連携や協調性は良好である。 ○若手教員に経験者からの指導や助言ができた。 ○提案をICT端末内で共有し効率化を図った。 ○学年間で情報がうまく伝わっておらず、意識に差が生まれ、協力が得られない場面があった。 ●決まったことを徹底してできないことがある。 ●教員の入れ替わりで引継ぎができていない。 ●会議の内容は事前に打ち合わせや精選が必要。 ●過重労働時間の増加。計画的に休暇を取る。	ONE FOR ALL ALL FOR ONE ・教職員間で信頼関係を築き、思いを伝えあひ寄り添いあえる関係づくりに努める。 ・学年の壁を越え、全ての生徒に全ての教職員でかかわる。 ・学校の課題に対し全教職員で対応する。 ・組織的な活動運営と、フォローしあひ学びあひ職員集団の実現 ・早期発見、早期対応、複数対応を基本とし、報告・相談・連絡の徹底する。	①居心地の良い職員室 ・日常的なあいさつ、声掛け ・「聴(訊)きあひ学びあひ」職員集団 ・研修会での対話場面の設定 ・机上・休憩室の整理整頓 ②複数対応 ・問題行動、保護者対応は複数で ・報告・連絡・相談の徹底 ③ワークライフバランスの推進 ・計画的な休暇取得 ・過重労働、定時退校日の理解と協力 ・協働的で無理のない部活動運営	「職場の先生から率直な指摘や意見がきける」 教員アンケート R4:100% R5:87.5% ⇒90% 「この学校の先生は互いに信頼しあっている」 教員アンケート R4:95.8% R5:89.8% ⇒95% 定時退校日の設定と推進 R5 月2日 9割 ⇒維持 部活動休養日週2日 R5 100% ⇒維持 時間外労働時間の縮減(12月現在) 月45時間超 R4:84人 R5:91人⇒0人 休暇日数 R4:18.7日 R5:16.5日 ⇒年間20日
	小中地域連携 ○ボランティアの増員により、学校支援が進んだ。 ○保護司メンバーによる月1回の部活動見守り協力。 ○1年生防災学習の地域への発信。 ○学校運営協議会委員の活性化。(校区連携) ●学校運営協議会委員の世代交代と引継ぎ。 ●地域の文化遺産、保護者世代の人材の発掘と活用	学校の枠を超えた教育活動の推進 ・子どもは地域で育てるものという理念のもとに、学校を取り巻く様々な立場からできる支援活動を依頼していく。 ・地域に絡んだ学校行事の地域への発信を積極的に進める。 ・小中での、学力・不登校・生徒理解指導・人権を中心とした連携を推進する。	①学校運営協議会の活性化 ・地域Coによるボランティア活動の推進 ・PTA活動との共催 ・小中合同、人権フォーラムへの参加促進 ②PTAや他団体との連携促進 ・保護司会との連携 ・地区補導における白子交番との連携 ③小中連携 ・4部会を中心とした情報共有と行事の開催	「地域の活動に参加したい」 生徒アンケート R4:68.3% R5:65.2% ⇒70% 地域行事等への積極的参加 ⇒生徒全員1回以上 地域ボランティア組織の確立と活動推進 ・登録者数 R4:1名 R5:12名 ⇒増員15名 ・年間を通じてのボランティア計画の作成と推進